View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
brought to you by CORE

【作品】

光と陰のあいだにII

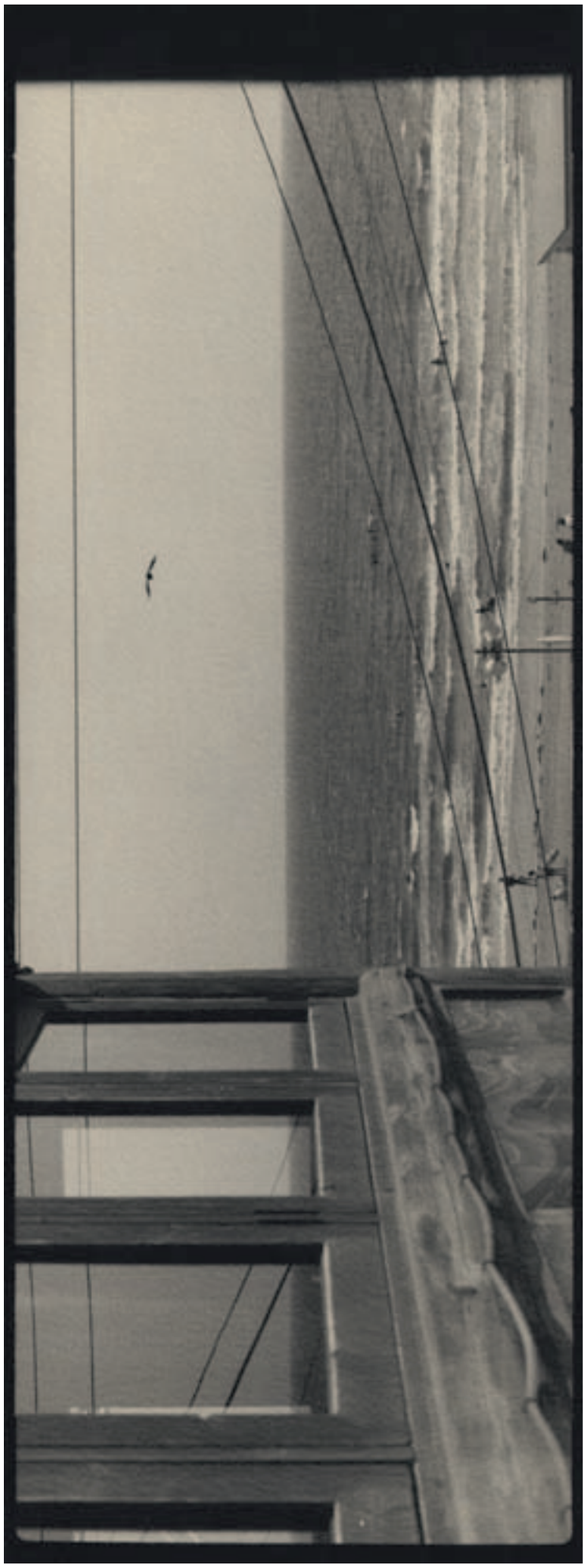
— Between light and shade II —

大田和 扶美奈
OTAWA, Fumina

①

②

③

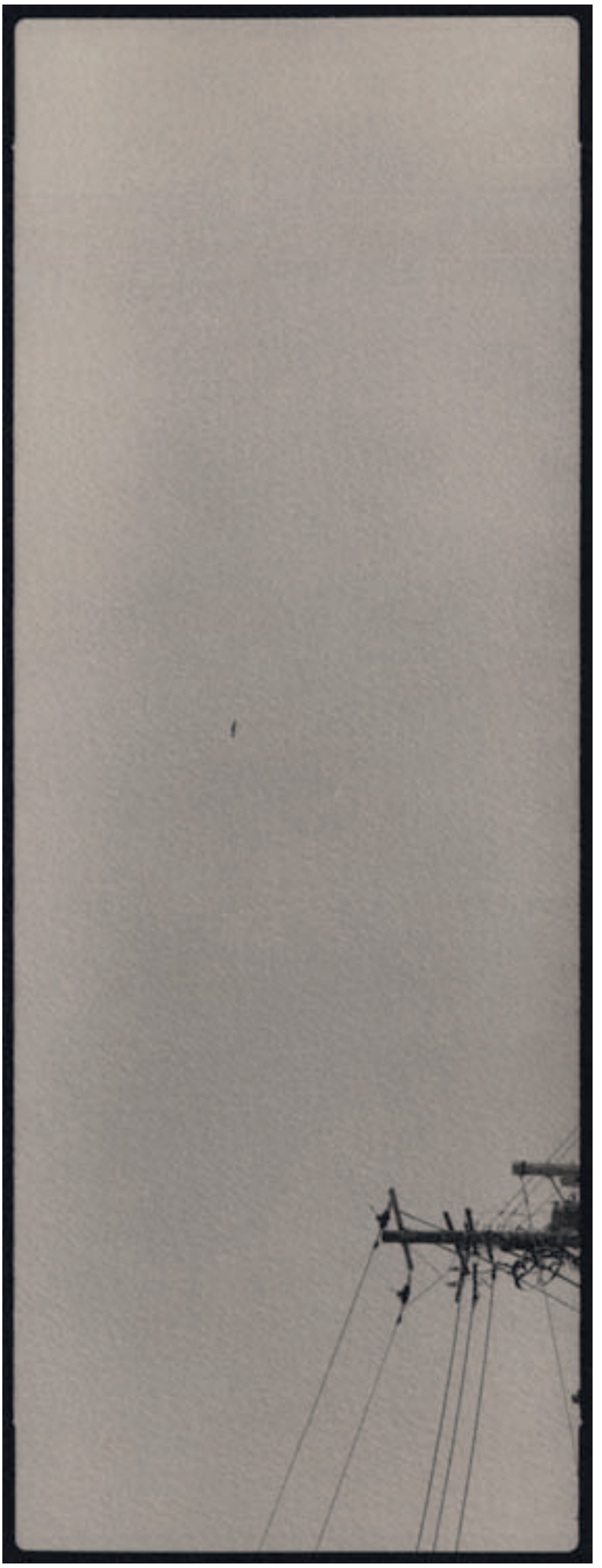


④

⑤

⑥

⑦



⑧

⑨

⑩

⑪

光の中に陰がある。
陰の中に光がある。
写真は光と陰で像を織り成す。

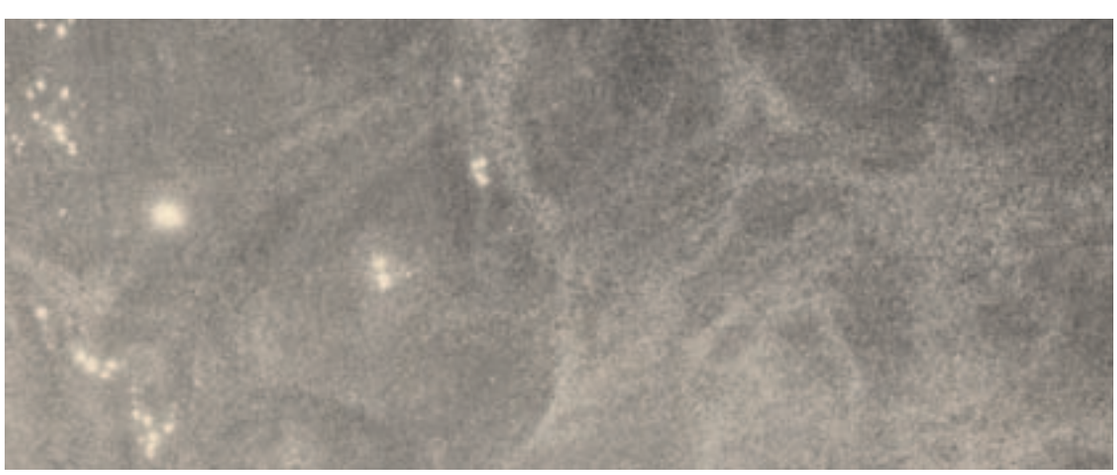
この作品は前作（杉野服飾大学・杉野服飾大学短期大学部 紀要 Vol.8 2009 掲載）の続編として制作した組写真である。
前作は「日中には陰を､夜には光を求める」撮影に徹底し､個人的な心象を表現するよりも､「ただそこにあるものを受け入れる」という、存在に対する考え方をテーマとした普遍的な表現を目指した作品であったが、今作では前作のテーマ、表現方法を引き継ぎながらも、その撮影・現像スタイルにはこだわらず、より個人的な視点を取り入れることを意識して制作を行った。

前作は白と黒の“あいだ”であるグレーゾーンを強調するため、純黒調の印画紙を使用したが、今作ではセピアに近い色彩に仕上がる温黒調の印画紙を使用した。
温黒調はその名の通り、純黒調に比べ温かい印象を与える。
また一部に使用した FOMA 社のフォマトーンクラシック 542 は、画用紙のような質感で写真に独特の風合を加える。

また今作ではパノラマのフォーマットを取り入れた。これに使用したのは、35 ㎜フィルムを 2 コマ分露光させることで、パノラマサイズの写真も撮影することができるシステムの中判カメラである。
人間の目が矩形で世界を捉えているわけではないが、この幅広のフォーマットはわたしたちの視界により近いように感じられる。そして自分の視界を見る側により感じてもらいやすいフォーマットであるようにも思う。
ともすると単調で客観的な印象にもなる 6×6 判の正方形と組み合わせることでリズムがつき、フォーマットの持つ特性を生かして全体のバランスを整えられたのではないだろうか。

前作と同様、光と陰の“あいだ”を彷徨いつづけることをテーマとした。
そこに温かな色彩や、より主観的に感じられるフォーマット、あえてボケさせた写真などを取り入れることで、淡々とした印象の中にも、より個人的で、深みを持たせた表現を目指した。

わたしたちは“あいだ”で、当たり前のただ同じ日々を繰り返す。
わたしももちろんそのひとりである。
今作で描いた世界は、わたしが彷徨い、わたしが紡ぐ“あいだ”である。



① 2010 年　ゼラチンシルバープリント　190.7 ㎜ ×194.7 ㎜　未発表

② 2010 年　ゼラチンシルバープリント　97 ㎜ ×262.8 ㎜　未発表

③ 2010 年　ゼラチンシルバープリント　262.8 ㎜ ×97 ㎜　未発表

④ 2010 年　ゼラチンシルバープリント　262.8 ㎜ ×97 ㎜　未発表

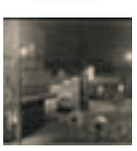
⑤ 2010 年　ゼラチンシルバープリント　262.8 ㎜ ×97 ㎜　未発表

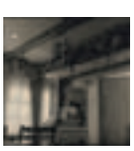
⑥ 2010 年　ゼラチンシルバープリント　262.8 ㎜ ×97 ㎜　未発表

⑦ 2010 年　ゼラチンシルバープリント　262.8 ㎜ ×97 ㎜　未発表

⑧ 2010 年　ゼラチンシルバープリント　262.8 ㎜ ×97 ㎜　未発表

⑨ 2010 年　ゼラチンシルバープリント　97 ㎜ ×262.8 ㎜　未発表

⑩  2010 年　ゼラチンシルバープリント　190.7 ㎜ ×194.7 ㎜　未発表

⑪  2010 年　ゼラチンシルバープリント　190.7 ㎜ ×194.7 ㎜　未発表